

南城市架け橋期カリキュラム作成ガイド

幼児教育の遊びは学び!! 小学校以降の深い学びへ



令和5年12月



南城市幼児教育センター

はじめに

文部科学省は、全国的な架け橋期の教育の充実を目指し、令和4年度より「幼保小の架け橋プログラム」を推進しています。これは、子どもに関わる大人が立場の違いを越えて自分事として連携・協働し、架け橋期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で全ての子どもに学びや生活の基盤を育めるようにすることを目指すものです。

本市においては、南城市幼児教育センターを中核に幼小の連携体制を構築し、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を推進してきました。今後も、これまで築いてきた幼小の連携体制を基盤として、市全域で架け橋プログラムの推進を図っていくことを目指し、本ガイドを作成しました。

幼小の先生方が、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとした対話を通して相互理解を深め、育成を目指す資質・能力を視野に入れながら共通の視点を持って教育課程や指導計画等を具体化し、さらに、架け橋期プログラムを策定・充実できるよう、本ガイドを各学校における研修等で御活用ください。

1 ねらい

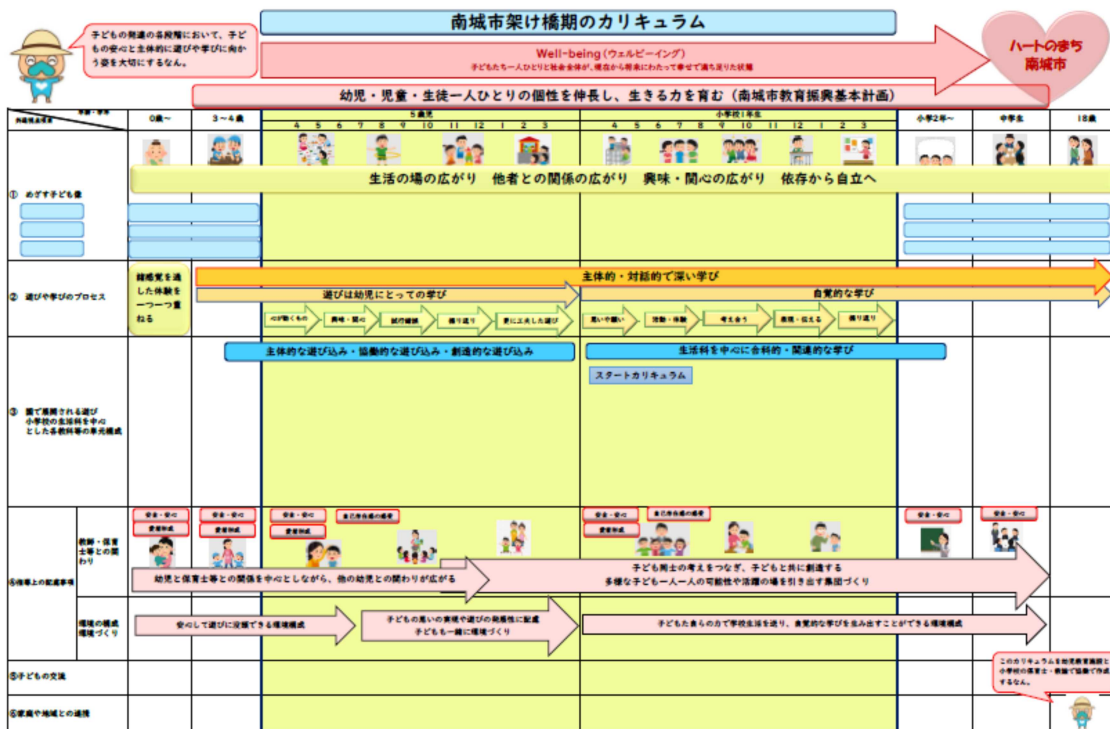
- 幼児期から児童期の発達を見通しつつ、5歳児のカリキュラムと小学校1年生のカリキュラムを一体的に捉え、地域の幼児教育と小学校教育の関係者が連携して、カリキュラム・教育方法の充実・改善にあたることを推進
- 3要領・指針、特に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の正しい理解を促し、教育方法の改善に生かしていくことができる手立てを普及
- 架け橋期に園の先生が行っている環境の構成や子供への関わり方に関する工夫が見える化し、家庭や地域にも普及
- 幼児期・架け橋期の教育の質保障のための枠組みを構築し、データに基づくカリキュラム・教育方法の改善を促進

2 方向性

架け橋期のカリキュラムは、保幼小が協働し、共通の視点を持って教育課程や指導計画等を具体化できるよう、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとし、育成を目指す資質・能力を視野に入れながら策定します。そして、園と小学校の先生と一緒に振り返って 評価し、改善・発展させていきます。

取組全体を通じて、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、園長・校長のリーダーシップと幼児教育センターの支援の下、園と小学校の先生が、子どもの育ちを中心に据えた対話を通して相互理解・実践を深めていきます。

3 様式



4 作成（各小中学校区において作成）

- ① 幼児教育施設職員と小学校担当者がめざす子ども像の共有をする。
 ※複数の幼児教育施設があるので、幼児教育の部分は共有化が図れるものを記載する。
- ② めざす子ども像を基に、園で主に展開していきたい遊びを記載する。
 ※幼児教育施設の環境等で、具体的な遊びが異なるので、それぞれの園での主になる遊びを記載することとする。例：○○遊び○○園
- ③ めざす子ども像を基に、小学校の年間の主な単元構成（生活科を中核に教科横断的な学習）を記載する。
- ④ 小学校や近隣の幼児教育施設相互の交流の主な取組を検討し記載する。
 ※ 無理なく持続可能な取組を検討する。
- ⑤ 家庭や地域との連携を図る取組を記載する。
 ※ 幼児教育施設と小学校が協働で実施可能なものでもよい